

「軍事力で平和は作れない」

2017年04月12日

シリアの反政府軍の支配地域で、サリンと思われる化学兵器による数百人の死傷者が出た。その惨状がテレビ映像で流された。肉体的な損傷はないが、苦しみ悶えながら、死んでいく悲惨なものであった。死にゆく子どもたちの映像は正視できない。化学兵器は当然ながら、国際的に製造も使用も禁止されている。

化学兵器による殺傷はシリアのアサド政権の空爆によると言われている。アサド政権は自分たちではなく、反政府軍が貯蔵していた化学兵器が飛散したためであると言っている。どちらが事実なのかは分からない。米国はアサド政権の空爆と断定し、空軍基地に59発のミサイル攻撃を加えた。死者が出、基地も破壊された。またもや、米国は主権国家に対し、攻撃を加えた訳である。化学兵器の出どころが判明していない。また、国連安全保障理事会で合意を得たのでもない。単独で、攻撃したのであるから、国際法違反と言わざるを得ない。米国は「国際警察」を止めたと言っていたが、化学兵器の使用を許せないと攻撃を正当化している。傲慢もいい加減にしてほしい。軍事力はテロリズムの拡散を生んだことを、今まで、経験してきたではないか。

シリアではアサド政権は、反政府勢力と対峙し、戦闘状態である。その狭間にIS（イスラム国）が加わり、混乱を極めている。何百万人もが国外脱出をし、ヨーロッパを混乱させた。脱出できない人々は食料不足と戦闘の恐怖に晒され、日々、死者数を増している。想像を絶する危機的状态の中に置かれている。良い指導者を得ず、大国の政治力学で翻弄されるシリア国民の苦悩はいかばかりかと思う。

ロシアのプーチン大統領はアサド政権を支持し、米国の攻撃を非難、反対している。米ロ間の関係もぎくしゃくしてくるだろう。米国のミサイル攻撃に対し国際世論は二分しているが、安倍晋三首相は、例によって、米国のすることを何の批判もなく、真っ先に承認、追従している。安倍首相が進める諸政策は、戦争が起こることを願っているようにしか思えない。彼を国の指導者にした国民の責任は重い。

北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の周りでも、危機が迫っている。北朝鮮は国連安保理決議を無視し、核実験とミサイル発射を続けている。米国は空母二隻を含む、大型艦隊を向かわせている。米国が攻撃を始めれば、朝鮮半島と、米軍基地のある日本では戦争状態になり、数知れぬ人々が犠牲になる。軍事力を誇示し合うところには緊張が高まるだけである。互いに理性的になり、話し合いを始め、戦争を回避してもらいたい。

「東京新聞」は、哲学者の梅原猛氏の「思うままに」を連載している。10日の夕刊に「ニヒリズムにあらがう」と題して、下記のように寄稿している。インマヌエル・カントは、人間理性の尊厳の思想を確立した理想主義の哲学者であった。この人間理性の尊厳の思想は最近までは少なからず世界を支配してきた。米国のオバマ大統領の言動には、個人の自由な人格を尊重する政治理念が存在していた。トランプ大統領は理想を捨て、米国第一主義と白人最優先という主張以外に何の理念も持っていない。彼をポピュリズム政治家と呼ぶが、そこには思想はなく、ニーチェのいうニヒリズムしかない。ロシアのプーチン大統領も、ニヒリズムを深く追求したドストエフスキー的な道徳的ニヒリズムの思想を持っている。彼もロシアの国益第一以外に理想を持っていない。カント哲学は衰退し、ニーチェが予言したニヒリズムの時代が到来した。この破壊的状况から人類文化の発展のために、「ニヒリズムにあらがう」と書いている。考えさせられる論考ではないか。